

▲今年度の発掘調査予定

(平城地区)

興福寺中金堂の調査

興福寺境内第一期整備事業に伴う調査を、昨年度の1月から継続して夏までの予定で行っています。調査面積は約1800㎡。中金堂の基壇が大部分の礎石とともに創建以来基本的に踏襲され続けてきたことや、階段・基壇外装・周囲の石敷の変遷、明治期に掘り出された国宝鎮壇具が置かれていた場所などが明らかになりつつあります。

興福寺旧一乗院跡の調査

奈良地方裁判所庁舎建て替えに伴う調査で、6月から9月にかけて実施する予定です。面積約765㎡。宸殿からその北側の池庭にかけての庭園中樞部分の解明が期待されます。なお、当調査予定地に一部重複する形で掘られた昭和38年の調査では、三彩をはじめとした貴重な遺物類が出土し、国の重要文化財に指定されています。

長屋王邸の調査

平城京左京三条二坊二坪における店舗建築に伴う調査。面積約210㎡。7月実施予定。未発掘であった長屋王邸内郭西南部分の調査で、邸宅の全貌がさらにわかっていくことが期待されます。

大乘院庭園の調査

財団法人日本ナショナルトラストによる整備と平行して行っている継続調査を本年度は秋に予定しています。ここ1,2年で明らかになりだした西小池部分のさらなる解明と、大池西岸の復原データを求めることが求められます。

平城宮跡の調査

本年は平城宮第二次朝集殿院地区1800㎡の調査を予定しています。南門を含む範囲で、表土掘削

の開始は秋のうちには始める予定ですが、本格化するのは来年に入ってからでしょう。

興福寺回廊の調査

この夏までの調査成果を受けて、中金堂院の回廊部分についても、来年早々に調査する予定です。これまで調査の及んでいない西面回廊をあけます。調査面積は狭いものとなるでしょう。

(平城宮跡発掘調査部)